

『名古屋セントラル病院』ニュース 春

新任医師のご紹介

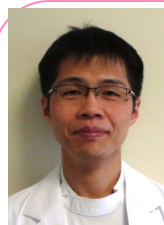
4月1日付で医師4名が新たに加わりましたので、ご紹介いたします。



呼吸器内科

医師 坂倉 未奈実

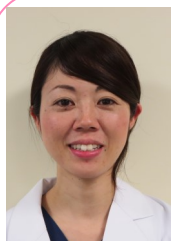
患者さんとのコミュニケーションを大事にし、不安や希望に寄り添って、その人に最適な医療を行っていききたいと思っています。他の科の医師やスタッフと協力してより良い医療を提供できるように日々努力していきたくと思っています。



消化器外科

医師 多代 充

患者様お一人お一人のことを考え誠意をもって務めさせていただくことを考えています。そのためには患者様とのコミュニケーションだけでなく知識と技術の向上が必要で、引き続き研鑽を積ませていただきたいと思います。



麻酔科

医師 野原 紀子

周術期における患者さんの苦痛を最小限にすることを第一に、丁寧な麻酔を心掛けていきます。疑問などありましたら、お気軽に相談して下さい。



ドック 予防医療部

医師 川嶋 紀久子

10年間の休職期間中は、患者や患者の家族として過ごしておりました。その経験を生かして、患者様お一人お一人のことを考え、誠意をもってつとめさせていただきます。

転出者のご報告（医師・レジデント）

呼吸器内科 医師 小林 玄弥

消化器内科 レジデント 大貫 友博 ・ 消化器外科 レジデント 森川 脩介

泌尿器科 レジデント 渡邊 晋 ・ 麻酔科 レジデント 西川 昌雄

開院100周年を迎えました

当院は1919年4月に名古屋鉄道治療所として開院し、1982年に一般診療を開始して以来、地域医療に貢献してまいりました。このたび開院100周年を迎えることから、これまでの感謝の意を込め、健康や医療等に関する知識向上や啓発を図る記念イベントを開催します。



● J R 東海「さわやかウォーキング」 2019年5月12日（日）開催！

「さわやかウォーキング」は、主に J R 東海沿線の観光資源をめぐる“参加費無料・予約不要・駅がスタート”のウォーキングイベント。名古屋駅出発のコースに当院を組み込み、血圧・血糖測定や骨密度検査、手洗いチェック、手術見学等をはじめ救急医療や病院について知っていただく様々な健康増進イベントを実施します。

● 病診連携勉強会開催 2020年2月22日（土） 会場：名古屋マリオットアソシアホテル 中尾院長による講演を開催する予定です。

その他、詳しくはホームページ等で順次ご案内いたします。

▲エントランスで当院沿革を掲出中

前立腺肥大症のレーザー手術（PVP）の 最新医療機器を導入しました

当院では、緑色可視レーザーを用いた前立腺肥大症の内視鏡治療の1つである光選択的前立腺蒸散術（PVP）を2005年に日本で最初に実施してから、約1,700例の経験があります。このたび、2月中旬にPVP新機種（GreenLight XP コンソールおよびGreenLight XPS（Moxy）ファイバー）を導入しました。

緑色レーザーの出力性能の向上により患部を蒸散させるレーザーの照射面積が従来機種より50%広がったことや専用ファイバーが改良されたことにより効率が向上し、手術時間の短縮が図られ、120グラム以上の巨大な前立腺肥大症にも対応できるようになりました。2月26日にはこれを使用したPVPを実施し、日本における初症例となりました。



GreenLight XP コンソール

前立腺肥大症の治療については、第95回病診連携勉強会において、当院 黒松泌尿器科長が講演しましたので、詳しくは次ページをご覧ください。



GreenLight XPS (Moxy) ファイバー

©2019 Boston Scientific Corporation. All rights reserved

第10回救急医療連携勉強会を開催

3月14日、中村消防署と合同で、連携強化と救急医療に関する知識向上を目的とした、救急医療連携勉強会を開催しました。今回は、心肺停止の症例を中心に取り上げました。救急隊による現場での救命処置紹介後、主治医が治療の経過・処置時の留意点を解説しました。あわせて、曾村救急科長による講義も行われました。質疑応答も活発に行われ、熱気あふれる勉強会となりました。

引き続き、安全で皆さまに安心していただける救急医療を提供し続けられるよう、消防署と協力しながら、院内スタッフ一同、いっそう尽力してまいります。



平成30年度倫理研修会を開催しました

3月に、愛知県立大学・百瀬由美子副学長を講師にお招きし、倫理研修会を開催しました。多数の職員で満席となり、「認知症医療の倫理と高齢者の権利擁護」について学びました。

今後も、各々が医の倫理を徹底し日々研鑽することで、信頼される病院づくりを目指してまいります。

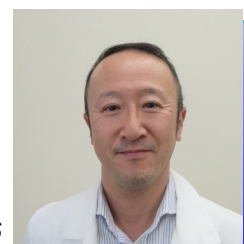




第95回 病診連携勉強会

前立腺肥大症Update

泌尿器科 科長 黒松 功



平成31年2月16日（土）、名古屋マリオットアソシアホテルにて病診連携システム登録医の先生方をお招きして勉強会を開催いたしました。当院医師による勉強会の内容をまとめましたので、以下にご紹介いたします。

前立腺肥大症は男性特有の臓器である前立腺の肥大（過形成）によって引き起こされる疾患で、尿勢の低下や残尿感・尿意切迫感など排尿に関する様々な症状の原因となります。

一般的に50歳以上の男性の5人に1人は前立腺肥大による症状を有していると言われています。2014年の厚労省統計によると前立腺肥大症患者数は約50万人となっています。しかしながら2017年の人口統計では50歳以上の男性が2680万人ですから、潜在的にはざっと10倍の数の肥大症患者がいると考えられています。肥大症の正確な診断には泌尿器科で超音波による前立腺体積の計測や、尿の勢いの検査、残尿測定などが必要ですが、一般診療でお役に立てるスコアがあります。これは国際前立腺症状スコア（IPSS）というもので、7項目の排尿に関するアンケートに答えてもらい、それぞれの項目の合計点で肥大症の「あり・なし」や重症度を判断するというものです。これらの検査によって治療が必要な肥大症であると判断されると、まず内服治療を開始することになります。

現在日本泌尿器科学会発刊の「男性下部尿路症状・前立腺肥大症診療ガイドライン」によると、使用できる内服薬の中で十分な効果があり、エビデンスの蓄積された推奨グレードAの治療薬は、「α1ブロッカー」「5α還元酵素阻害薬（アボルブ）」「PDE5阻害薬（ザルティア）」の3剤です。α1ブロッカーはその歴史も古く、様々なサブタイプ選択性の薬剤が販売されていますが、中でもα1Aへの選択性が高いタムスロシン（ハルナールなど）、シロドシン（ユリーフ）、α1Dへの選択性が高いナフトピジル（フリバスなど）が副作用も少なくお勧めです。これに加えて、前立腺体積の比較的大きな（30ml以上）肥大症にはアボルブを併用して前立腺体積を30%ほど減少させることも推奨されています。PDE5阻害剤であるザルティアは、ED治療薬のシアリスと同一成分の薬で、2.5~5mgを毎日内服することにより、排尿状態の改善だけでなく男性機能の改善も期待されますが、初回処方にあたっては残尿測定・前立腺体積測定・尿流量測定のいずれかが必須となっていますので注意が必要です。

α1ブロッカーは、

- ・比較的早期に症状を改善する
- ・約2/3で症状緩和が期待できる
- ・主な副作用は起立性低血圧、射精障害など

ハルナール (タムスロシン)	・プラセボや他剤との比較試験が最も多い
フリバス (ナフトピジル)	・他の2剤に比べて夜間頻尿により有効性が高いという報告がある ・眠気が生じる可能性がある
ユリーフ (シロドシン)	・上記2剤に比べて自覚症状の改善率が高いという報告がある ・射精障害は必発

Take Home Message

- ・潜在的な前立腺肥大症患者は50歳以上男性の1/5（500万人以上？）
- ・内服薬はα1ブロッカーが第一選択。大きな肥大症にはアボルブ追加が有効。ザルティアも有効だが、処方前にエコー、残尿測定などが必須
- ・手術はまだ従来の「けずる」手術が日本では過半数だが、「溶かす（蒸散）」、「くりぬく（核出）」手術が急速に増えつつある。今後さらに多様な手術が導入される可能性がある。

これらの治療でも奏功しない、内服をやめたいなどの理由で手術療法が選択されることがあります。手術の主流は侵襲性の少ない経尿道的内視鏡手術です。これまでは高周波メスで前立腺を切除するTURPという手術がgold standardでしたが、近年各種レーザーを使用したより侵襲性の低い内視鏡手術が広まりつつあります。当院では2005年にLBOレーザーを用いた前立腺蒸散術PVPを日本で最初に開始しましたが、現在では日本中でPVPが広く導入され、先述したガイドラインでもTURPと並んで外科治療の推奨グレードAを会得しています。排尿障害でお困りの患者さんがみえましたら、ぜひ一度当科までご紹介ください。

Topics

4月1日付で新入職員を迎えました

4月1日より、研修医5名・看護師16名・薬剤師1名・診療放射線技師1名の計23名が当院で社会人として新たなスタートを切りました。今後もさらなる地域への貢献を目指し、新しいメンバーとともに職員が一丸となって地域医療に取り組みます。今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。



Event

第97回病診連携勉強会

日時：2019年6月18日（火）14：00～

会場：名古屋セントラル病院 2階 多目的ホール

テーマ：変形性膝関節症の治療

講師：整形外科 科長 高木 英希

日本医師会生涯教育講座 カリキュラムコード：61（関節痛）

ゴールデンウィークの外来診療日のお知らせ

4月30日（火・祝）、5月1日（水・祝）、5月2日（木・祝）は平常通り診療いたします。
なお、業務の都合等により各科の診療が一部変更する場合もございますので、予めご了承ください。

※期間中の救急外来は、通常通り夜間を含めて原則として診療いたします。

■病院理念

- 1 安全で質が高く、快適でまごころのこもった患者本位の医療
- 2 健全な病院経営による地域社会への貢献
- 3 協力、責任感、積極性にあふれた活力ある病院づくり

■ビジョン

- 1 地域の中核病院として、常に先進的で専門的、良質で効率的な急性期医療を提供する
- 2 医学的根拠に基づく医療を確実に実践し、部門や職種を超えた安心で信頼感のあるチーム医療を提供する
- 3 充実した救急医療と予防医療を提供する
- 4 地域の医療機関と綿密に連携し、受診される皆さまに最適な医療環境を提供する
- 5 各々が医の倫理を徹底し、日々研鑽するとともに医療人の育成に努め、信頼され選ばれる病院をつくる

編集：名古屋セントラル病院 地域・法人連携室

〒453-0801 名古屋市中村区太閤三丁目7番7号 TEL:052-452-3165（代表） FAX:052-452-3182

E-mail:hospital@jr-central.co.jp

URL:https://nagoya-central-hospital.com